

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

健康新聞

発行所
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

https://shinkenko.jp



次の御論文は明主様が、昭和二十四年に発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

幸福の秘訣

幸福の秘訣などというと、何か特別の魔法でも使うように思うかも知れないが、決してそうではない。至極あたり前の話である。ただそのあたり前の事を、世人はあまりに気がつかないのである。

今社会全般を見渡した時、真の幸福者は一体幾人あるであろうか、おそらく一人もないといってよからう。事程さように苦悩の世界である。実に如何なる人といえども失敗、失業、病苦、貧困、不和、懷疑、悲観等、実に首枷、足枷をはめられ、牢獄に呻吟しているというのがありのままの姿であろう。

まず誰しも平静になつて考える時、こういう疑問が起ころう。全体造物主である神様は、人間を造つておきながら、これ程苦しませるといふ事はどういふ事であろうか。なぜもつと不幸よりも幸福の多い世界にしてくれないのであろうかと思わない訳にはゆくまい。と考えると、何かそこに割り切れないものがあるに違いない。従つてその割り切れない点を誰しも知りたいであろうから、それを説明してみよう。

人間の発生した原始時代から今日ただ今まで厳然として存在を続けているものとしては、まず善と悪とであろう。これは真理である。そうして、この善悪という相反する性質のものは常に摩擦し争闘しつつ、今もって勝負がつかないでいる。ところがよく考えると、この善悪の摩擦によつて今日のごとき文化の発展

をみたのであるという事も、また真理である。この事について私はよく質ねられた事がある。それは神様は愛であり慈悲であるとしたら、最後の審判などといって人間に悪い行いをさせ、罪を作らせておきながら、それを罰するというのはどうも訳が分からない。最初から悪人を作らなければ、罰も審判の必要もないではないかというのであるが、これはもつとも千万な話で、実をいうと私もそう思っている。しかしながら、私が人間を造つたとすればその説明は容易だが、私といえども造られた存在である以上徹底した説明は出来ようはずがない。強いて説明をすれば、神の御心はこうであろうと想像する以外、説明のしようはないであろう。とすれば、そんな穿鑿は有閑人に任せて、我々としては現実を主とし生ある間幸福者たり得ればそれでいいのである。故に、何よりも右の根源を発見し実行する事である。ではその方法とはいえば、常に我々のいう他人を幸福にする事で、ただこの一事だけである。ところが、それには最もいい方法がある。その方法を私は長い間実行していて、素晴らしい好結果を挙げているので、それを教えたいためにこの文を書いたのである。

右をまず簡単にいえば、出来るだけ善事を行うのである。始終間さえあれば何か善い事をしようと心がけるのである。例えば人を喜ばせよう、世の中のためになら妻は夫を気持ちよく働かせるようにし、夫は妻を親切にし安心させ喜ばせるようにする。親は子を愛するのは当然だが、叡智を働かせて子供の将来を思い封建的でなく、子供は親に快く心服し、愉快に勉強させるようにする。その他日常すべての場合相手に希望をもたせるようにし、上役に対しても下役に対しても愛と親切とを旨とし、出来る限り誠をつくすのである。政治家は自分の事を棚上げにして国民の幸福を第一とし、すべて模範を示すようにする。勿論一般人も一生懸命善事を行う事につとめ、知恵を揮い努力するのである。このように善事を多くした人程幸福者になる事

は掛け合ひである。

以上のように、みんなが気を揃えて善事を行つたと見たら、国家も社会もどうなるであろうかを想像してみるのがいい。まず世界一の理想国家となり、世界中から尊敬を受けるのは勿論である。その結果あらゆる忌まわしい問題は解消し、我等が唱える病貧争絶無の地上天国は出現し、人民の幸福は計り知れないものがある。この事は、大地を打つ槌ははずれても、これは決してはずれっこはない。

ところがだ、現在としての現実はどうであろうか。

およそ右と反対で、悪事を一生懸命しようとする人間が滔々たる有様で、嘘をつき人を誤魔化し、己のみうまい事をしようとして日もこれ足らずの有様である。実に悪人の社会といつても過言ではない。これでは幸福などは千里の先へ行きつきり帰るはずはない。その上困つた事には、こういう地獄世界を当然な社会状態と決めてしまつて、改革等は夢にも思わないのである。しかも、我々がこういう地獄世界を天国化すべく活動するのを妨害する奴さえある。これこそ自分から好んで不幸者となり、最低地獄へ落ちるようなものである。こういう人間を我等からみる時、最も憐れむべき愚人以外の何物でもないと共に、我等はこれらの人間の救われん事を常に神に祈願しているのである。あまり長くなるからここで筆をおくが、以上の意味をよく玩味すれば、幸福者たる事はあえて難事ではない事を知るであろう。

浄霊体験記

- 痛みから解放され 薬いらすの生活に…
- 体内の掃除によつて ますます健康に…
- 元氣になった姿に 涙して喜ばれる…
- 絶望の毎日から 希望と喜びの日々…

浄霊によって真の健康体となり、運命が向上し、幸せになられた方々の体験でございます。

頭痛・肩こり・生理痛

痛みから解放され薬いらずの生活に…



芦北支部 沼田君代 (61)

私は二十五歳の時、当時の勤務先の社長の奥さんから、浄霊のことを教えてもらいました。

私は社会人になってから、頭痛、肩こり、生理痛に悩まされ、特に頭痛がひどく、吐き気を伴うこともしばしばでした。病院に行っても、薬を飲んで良くならず、どうにかしてこの頭痛を治したい一心で浄霊を受け、入会しました。

おかげ様で、浄霊を受ける毎に、あれほど苦しんでいた頭痛は徐々に良くなっていき、いつの間にか痛みがなくなりました。私は本当に有難く、それ

以来薬とは無縁の生活になりました。二年半前のことです。うちは農業を営んでおりますが、秋の稲刈りが始まって一週間たった頃、右腕に怪我をしてしまいました。

猪よけの金網柵を取り外し、別の場所に運んでいた時、木の株に足が引つかかかって転びそうになり、直径約三ミリの金網の先端が、右腕に強く当たりました。

腕がどうなったか、見るのは怖かったです。腕に痛みがあったので、作業服を脱いでみました。すると、血が出ている様子もなく、金網の先端の形がほんの少し肌についているだけでしたので、私は安心し、明主様に御礼を申し上げて、そのまま作業を続けて帰宅しました。

その後、金網の当たった部分が少しずつ紫色になり、段々と腫れていきました。痛みも出て来たので少し不安になりました。支部に行つて浄霊を受けました。私の怪我を見て、支部の先生から「これは痛いでしょう」と言われましたが、先生は「大丈夫ですよ」という顔をしておられたので、安心しました。しばらく痛みが続き、最終的には野球ボール位の大きさにまで腫れましたが、その日の夜八時頃には痛みがなくなり、夜もぐっすり眠れました。

紫色に腫れている腕を見て、家族や周囲の人達はとても心配していましたが、おかげ様で私自身に不安はありませんでした。毎日浄霊を受けることで徐々に腫れは小さくなり、一カ月程で完全に良くなりました。その間、稲刈りも手伝うことが出来、感謝しています。

私は四十七歳から農業の手伝いをするようになりましたが、体力があまりなく、重い物を持ちたり、かがんで作業をしたりすると腰を痛めたりと、な

かなか上手に出来ないことが多々あり、夫や義父母にはかなり負担をかけてきたと思います。今回の怪我は、そもそも夫が教えてくれた通りに金網を持っていなかった私に原因があるので、もしあの時、金網を抱えたまま転倒していたら、腕に突き刺さって大変なことになっていたかもしれない、大難を小難に変えて下さった明主様の御守護に、心から感謝しております。

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。まずは試されてみてはいかがでしょうか。

(熊本県葦北郡)

激しい腰痛

体内の掃除によってますます健康に…

川棚支部 岩永達也 (55)

私は、両親が協会の会員でしたので、私も子供の時から浄霊を受けて育ちました。そのため、今までにいろいろとおかげをいただき、大きな事故やケガ、災害に遭うことなく過ごせております。心から明主様に感謝申し上げます。

これは、以前腰痛になった時の体験談です。

令和元年十一月下旬、物を持ち上げた後、仙骨のあたりに少し痛みがありました。最初はあまり気にしておりましたが、日を追うごとに痛みが増して、仙骨の他、腎臓付近から細腰、下腹部にかけて痛みが広がり、歩行することも困難になっていきました。

十二月二日、出勤のため起き上がるうとして身体を動かすと痛みが走るため、家の中では杖を使いながらゆっくりと壁を伝い歩き、時間をかけて服を着替えて、そろりそろりと車に乗り込み、何とか仕事に行きました。しかし、時間が経つにつれて段々と痛みが激しくなりましたので、午後から仕事を休み、支部で浄霊を受けることにしました。浄霊を受けた後、自宅に帰ることは出来ました。

翌三日の夜中三時頃、トイレに行くため起き上がろうとしましたが、腰から背中全体にかけて激しい痛みがあったため起き上がることが出来ずに、六

時頃、横になった状態で尿瓶に用を足しました。その日は仕事を休み、支部へ行くことが出来なかったため、横になったまま家族の者から浄霊を受けました。そして、支部の方に出張浄霊をお願いしました。おかげ様で、この時には布団から起き上がり、座って浄霊を受けることが出来ました。浄霊を受け終わると随分と楽になり、杖を持ちながらもスムーズに歩いてトイレに行くことが出来ました。

四日の朝、トイレに行こうとしたら再び起き上がることが出来なかった。この日も尿瓶に用を足しました。その後は、痛みが少し楽になり、支えがあれば立つことが出来ましたので、仕事に行くことが出来ました。午前中はまだ少し痛みがありました。午後からは少しずつ痛みが軽くなりました。

おかげ様で翌日以降も仕事へ行くことが出来ました。

痛みの激しい当初は、仕事を長期間休むことになるのではないかと不安がよぎり、生活のことも考えると、今後どうなるのだろうかと考え、今後りましたが、明主様にお継りさせていただき、しっかりと浄霊を受けることで良くならせていただけました。また、この時の痛みで、普段元気な時も浄霊を受けることが大切だということに改めて分かっていただきました。

激痛の時は動くことが出来ずに辛く苦しくもありましたが、今では以前よりも体が軽くなり、体内の毒素が出たように感じました。激しい痛みを伴う腰痛でしたが、約二週間という短期間で良くなり、ますます健康にしていきたいと思います。

明主様への感謝の気持ちとともに、改めて浄霊の御力、偉大さを体験させていただきました。

(長崎県東彼杵郡)

頸椎神経鞘腫

元気になった姿に
涙して喜ばれる…

札幌支部
木下雅美 (59)



私が十歳の時、母の体調がすぐれず困っていたところ、会員であった親戚の紹介で新健康協会にご縁をいただきました。私自身、その当時のことはあまり記憶にありませんが、母は浄霊を受けらるうちに持病の肩こりが楽になり、浄霊はすごいと思ひ、次第に家族で支部に通うようになりまして、私が十一歳の時に家族全員で入会しました。それまでの私は体が弱く、風邪を引いたら病院に行き、風邪薬や解熱剤、咳止めを服用していましたが、浄霊を受けようになつてからは薬を飲む必要がないほど元気に過ごしております。

七月上旬には痺れが強くなり、下旬には両手の先が痺れるようになりまして。八月上旬には両手の痺れに加え、首の痛みを感じるようになりました。その度に浄霊を受けると、手の痺れや首の痛みが楽になったり、動かしやすくなつたりしました。その後、冬頃には右肩から腕にかけて痛みがあり自由に動かすことが難しくなりました。年齢的にも五十肩と思ひ込み、自宅でも支部でもよく浄霊を受けて過ごしました。

それから二年後の三月のことです。突然全身が硬直し、首の後ろが締め付けられるような痛みと同時に呼吸もしづらく、息苦しくなることが何度かありました。その後、一日中ソファーに寄りかかつて過ごすような状況が続きましたので、一度、近くのクリニックへ行くことにしました。しかし、脳にも異常がなく、原因も分からなかった。そこで、大きな病院でMRI検査を受けると、「頸椎神経鞘腫の疑い」と診断されました。第一、第二頸椎の間に存在している脊髄神経から腫瘍が発生し、増大することで脊髄が著しく圧迫され、手足の機能が著しく損なわれていくというものでした。「手術で脊髄を圧迫している腫瘍を取り除く外科手術が必要で、このまま手術をしなれば、徐々に首から下が動かなくなり、じきに呼吸も自力で出来なくなる」と言われました。もし私がこのまま寝たきりになつてしまつたら、家族に多くの負担をかけてしまう…と思ひ、明主様をお願いをして、手術することにしました。

手術の日の朝も病院に向かうぎりぎりまで出張浄霊をいただきました。

五月三十日、無事に手術を終えました。術後の数日間、傷口の痛みはありませんでした。入院中も家族が来るたびに浄霊を受け、面会時間外は自分でもたくさん浄霊を受けました。受ける前は苦しく、張りを感じていた部分もその都度楽になりました。体を起こせるようになってからは浄霊を受けるたびに背中が伸び、自力で座つていられるようになりまして。また、足もむくみが引いて、自力で立ち歩けるまでになりました。自分自身の体の変化していくのを感じ、改めて浄霊の有り難さを実感しました。その後、リハビリも順調に進み、七月初旬、当初の予定より一カ月くらい早く退院することが出来ました。お医者さんはじめ、看護師さん私の回復の早さにとても驚いておられました。

ゼロだった握力も戻り、徐々に以前と同じ生活が送れるようになりまして。その上、お小水の出も良くなり、感謝の気持ちでいっぱいです。おかげ様で支部へも一人で行くことが出来るようになりました。また、年末には東京に住む息子のところへも飛行機で行き、引越しの手伝いもしてあげることが出来ました。家事をはじめ、大好きな花を庭で育てたり、生け花をしたり、家庭菜園も楽しむことが出来るようになりました。今回、家族をはじめ、たくさんの方に支えられ乗り越えることが出来ました。元気になった私の姿を見て、皆さん涙して喜んでくれました。日常生活が普通に送れるようになった時、本当に嬉しかったです。これは、明主様に新しくいただいた命と思ひ、感謝して毎日を大切に過ごしていきたいと思ひます。(北海道札幌市)

気力もなく、体がだるい

絶望の毎日から
希望と喜びの日々…

鹿島支部
坂井江美子 (69)



私は、二十八歳の時に十日間位ずつと多量の不生出血が止まらなかつたので、病院に行きました。すると医師より、すぐ手術をするように言われ、翌日、子宮を取つてしまいました。その時は、あまり深く考えていませんでしたが、大変なことをしてしまつたと、後から思ひました。大切な物をなくして、頭痛と共に体もどんどん弱り、食欲もなくなつて、家では何も出来ず、寝てばかりでした。

二年後、肋膜炎になつてしまい、一カ月入院した時に色々な薬を飲みました。退院して家にいましたが、台所の仕事も満足に出来ず、気力もなく、体がだるくてなりません。その頃、一枚の健康新聞を学生さんが配布して来られたので読んでみると、病気が治らず苦しんでいた人達が、助かつて元気になつていっていると書かれていました。私はこれを読んで、私

も体が良くなるかもしれないと思ひ、支部へ伺いました。その当時の私の姿はやせ細りの中学生かと思われる程でした。浄霊を受け始めましたところ、今まで全く何も出来なかつたのですが、起きて家事、仕事が出来来るようになり、食欲も旺盛になり、太りだしました。おかげ様で生きる希望と喜びが湧いてきて笑顔も出るようになりました。その後、三十八年間ひどかつた娘のゼンソクも良くなり、畑仕事も出来るようになりまして。明主様にたくさんお救い頂き、感謝するばかりです。(佐賀県杵島郡)

浄化作用

人間には体内の毒素を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えば、カゼの場合、蓄積してきた不純物や体外から入ってきた毒素を浄化するために熱や痛みが出ます。そして、その結果ハナやタンなどが出て体の中が掃除され、霊・体共に清浄化されます。その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、体の不調和を調和させる大切な清掃作用でもあるのです。

自然農法

明主様の御教え

無肥料栽培

私は今無肥料栽培に就き解説するにあたって先づ根本理論から説いてみるが、抑々土とは何ぞやといふ事である。言ふ迄もなく人間生命を保持すべき最重要なる五穀野菜を生育すべく、造物主が造られたものに違いない。従つて土そのものの本質は神秘幽玄なるものであつて、現在までの唯物科学によるも到底窺知し得ない事は論をまたない感である。然るに今日迄の農業は不知不識邪道に陥ちいりたる結果土の力を蔑視し、一切の作物をより良く生育するには糞尿又は化学肥料等の人為的肥料に依らねばならぬと思ひ、今日に到つたのである。

然るに以上の如き結果は、土壌の本質は漸次退化変質し、土壌本来の生育力は衰耗するに拘わらず、それに気が付かない為、農作不良の原因は肥料不足に困ると錯覚し益々肥料を施すから土壌の力は愈々鈍化しそれを補わんとして肥料をより施す結果、今日の如く日本の國土は瘦地化し、農耕者の口を揃えて嘆ずる処である。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てること、自然力を生かす農法です。

自然農法体験談



山鹿支部 小池祐生 (67)

私が住んでいる熊本県菊池市七城町砂田は、昔からおいしいお米の産地ではありますが、砂まじりの土壌のため、肥料の流れ出るのが早く「秋落ち」という秋になつて収量が落ちる田んぼでした。それでも、計算に強い父は緻密な計算を行い、収量を上げることを夢に努力していました。

そして昭和55年、一つの転機が訪れました。私が新健康協会を知り、山鹿支部に行った時のことです。当時、支部におられた先生から「農薬や肥料を使わない自然農法をぜひやってみてくれませんか」と言われました。その頃、田んぼは父が主となつてしていましたので、父に相談するとその意見に賛成してくれ、20アール(約600坪)の田んぼから自然農法を始めることになりました。最初は草取りに追われて苦勞の連続でしたが、合鴨農法などを経て少しずつ除草が進むようになり、自然農法の面積を増やしていきました。すると、これが父の生きがいとなり、80歳まで現役でバリバリと働いていました。

おかげ様で現在は230アール(約6900坪)の田んぼ全てを自然農法で栽培しており、一番年数の長い田んぼは40年になります。毎年、頑張つて育つ稲に寄り添いながら、「稲が育つお手伝い」をしております。多くの方に安心・安全のお米をお届けしたいとの思いで、自然農法の普及にも努力していきたいです。誠に有難うございました。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

永楽妙全

《金欄手菊桐香合》

全国各地で生産されるやきものはそれぞれに歴史と特徴がありますが、京都でつくられる「京焼」と総称されるものは、独自のスタイルがあるといったことは少し違った特色をもっているようです。それは、茶人の注文に添えてきたことにより、幅広くさまざまな様式がつけられてきたという特色です。

長らく政治経済の中心地として栄え、朝廷や貴族の拠点であった京都は、貢納品や商品としてのやきものが集まる流通網が整備されていて、当地で大量生産する必要がありませんでした。そのため、本格的な陶窯ができたのも桃山時代以降でしたが、それは茶の湯の隆興に押されてのことだったそうです。茶人たちはそれぞれの産地へ注文するのではなく、身近に築かれた陶窯で唐物や高麗物、名品の写しをはじめ、好みの形や色を伝えて茶陶をつくらせるようになりました。

こうした時代の流れの中、京焼らしい作陶が行われてきたのが永楽善五郎家です。千家指定の茶道具を調製する家「千家十職」に名を連ね、湯を沸かす陶土製の炉を手がける土風炉師としての立場を確立していた善五郎家は、十代了全、十一代保全の頃から茶陶もつくるようになり、備前焼、信楽焼などの焼き締め、染付、赤絵、金欄手などの中国陶磁風、三島などの高麗物、仁清や乾山などに見られる京発の文様などまで、驚くほど多彩な様式で制作しました。茶道の家元とのつながりが深く、茶人たちに応じて提供する家職の性格と、それを実現できる技術があつてこ

そのことです。

この《金欄手菊桐香合》は、妙全(一八五二〜一九二七)作と伝わるものです。十四代得全の妻であった妙全は得全の没後、のちの十五代正全とともに十九年間にわたつて家業を引き受け、現在の安定を築く仕事に尽くしました。作品そのものは正全がつくつたとの記述もあり、そうだとすれば妙全は工房のディレクター的な働きをしたといえます。本作からは器や図柄の輪廓にどこことなく優しさを感ずりますが、十七代が言うように、女性の好みに適つたデザインで支持を増やした面もあるのかもしれない。歴代には数えられていませんが、妙全がいなければ代は繋がれなかった訳で、その功績の大きさが偲ばれます。

解説 松田愛子



金欄手菊桐香合

晴明会館

「伝承の趣」前期展 期間…6月1日(水)〜12月13日(火)

※晴明会館お問い合わせ ☎092(661)1555

健康新聞についてのお問い合わせは ☎092(661)1531まで